

### 婦人科で扱っている内容と症状

婦人科検診（子宮がん、子宮筋腫、性病など）

子宮や卵巣、甲状腺の病気の治療

月経異常・基礎体温の異常

（痛み、嘔吐、下痢、出血量、生理期間や周期などの異常）

不正出血（排卵期や生理期間以外の出血）

おりものの異常（量、色、臭いなど）

下腹部の異常（激しい痛み、しこり、圧迫感）

性器の異常（外陰部や膣などのかゆみ、痛み、できものなど）

乳房の異常（しこり、痛み、腫れ、形の異常）

妊娠の可能性、悩み、不妊

セックスによる異常（痛み、出血）

見本

〇〇市の子宮頸がん検診を  
利用すれば自己負担は〇〇〇〇円

〇〇市では20歳から2年に1度、子宮頸がん検診を  
〇〇〇〇円\*で受診できます

子宮頸がん検診を受けると決めたら、〇〇市の検診を利用しましょう。  
2年に1度、お住まいの地域の指定医療機関で自己負担〇〇〇〇円  
で子宮頸がん検診を受診することができます。〇〇市の検診の利用方  
法についての詳しい情報は同封のはがきをご覧ください。（子宮頸がん  
検診以外の検査を同時に受診するには別途料金がかかる場合があります）。

※無料クーポンをお持ちの方は、無料で検診を受けることができます



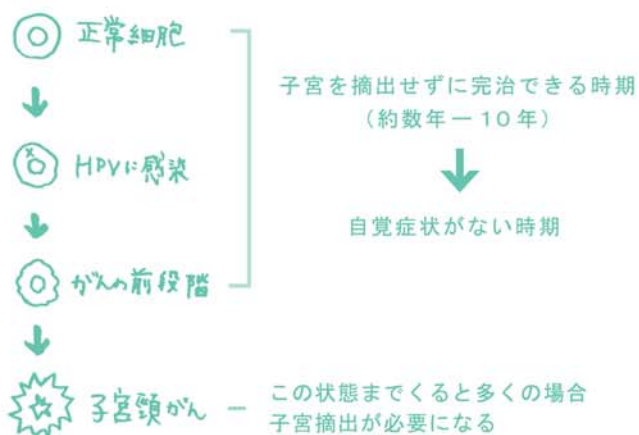
## 子宮頸がん検診は20歳から 2年に1度

まずは子宮頸がん検診を受けに婦人科に行きましょう

子宮頸がんはセックスでうつるヒトパピローマウイルス（HPV）が原因です。このウイルスは非常にありふれたもので、約70-80%の女性が一生に一度は感染します。そのほとんどは自然に消滅しますが、消滅しなかった場合は子宮頸がんを引き起こす可能性があります。HPVに10代のときに感染していれば、がんとして発病するのは20代。実際に子宮頸がんの患者の4人に1人は20代-30代の女性です。発見が遅れると子宮摘出手術が必要になり、将来妊娠・出産ができなくなる場合もあります。

子宮頸がんは自覚症状がほとんどなく、知らないうちに  
進行します。だからこそ定期検診を受ける必要があります

子宮頸がんは、がんになる前段階での発見が可能で、早期に治療すれば完治できる病気です。しかし日本では検診を受ける女性が少ないために発見が遅れる傾向があります。自覚症状がない病気を早期に発見するには定期的に検診を受けるしかありません。日本では20歳から2年に1度、定期的に子宮頸がん検診受診を勧めています。20歳以上の女性は生理不順などの症状の有無にかかわらず、婦人科に検診を受けに行きましょう。



## 子宮頸がん検診は5分で終わる 簡単な検査です

子宮頸がん検診は短時間で終わる簡単な検査。痛みは  
ほとんどありません

### 問診の質問内容

気になる症状  
生理について（周期、痛み、不正出血の皆無など）  
性体験の有無  
婦人科系またはその他の病気歴  
服用中の薬  
薬に対するアレルギー

### 内診

大きめの綿棒で子宮の入り口をこすり、表面の細胞を取り  
ます。専門医が顕微鏡で異形成細胞がないかを観察します。

婦人科は女性の健康維持のためにある科。他にも悩みが  
あれば、我慢せずに婦人科に相談しましょう

「なんとなく体調が悪い、生理不順。悩んではいるけれど、病院まで行くのは気が引ける」そんな悩みも問診の時に婦人科医に相談しましょう。その症状は婦人科系の病気や性病のサインかもしれません。もし病気ではなくても、婦人科は女性が健やかに生きる手助けをしてくれる科。あなたが不安定な体調や毎月の重い生理に振り回されずに毎日を元気に過ごす手助けをしてくれます。

体調不良

生理不順

かゆみ

頭痛